

DOYOU

さいたま

同友会の三つの目的 / 良い会社 良い経営者 良い経営環境をめざす



各地区会の幹事メンバーと広報委員が連携し、市町村の首長を訪問する特集の第4回は戸田市長のインタビューです。若さ溢れる菅原文仁戸田市長に、中小企業振興条例の具体的な施策、産業政策、地域貢献、産官学民と連携についてお聞きしました。

(写真左より戸田・蕨地区会 木村亮介幹事、小林隆文副会長、
菅原文仁戸田市長、池田大喜会長、吉田雄亮副代表理事)

2019-10 October
VOL.499 毎月1日発行

特集

【特集】首長訪問〈第4回〉

～菅原文仁 戸田市長に聞く～

中小企業振興条例を機軸に更なる経済と雇用の好循環を目指す

<http://www.saitama.doyu.jp>

社長の[®]
学校

【特集】首長訪問 〈第4回〉

～菅原文仁 戸田市長に聞く～ 中小企業振興条例を機軸に 更なる経済と雇用の好循環を目指す

【聞き手】

池田大喜会長、吉田雄亮副代表理事、
小林隆文副会長、木村亮介幹事(広報委員)

1998年日本体育大学卒業後、同年に社会体育事業を目的とする会社を設立。2004年同社の代表を辞任し、2005年戸田市議会議員に初当選。2011年埼玉県議会議員選挙に無所属で立候補し初当選。2018年3月25日に行われた市長選で、初当選を果たしました。

市議会議員時代に中小企業振興条例の制定に関わり、市長として制定に関わった中小企業振興条例を活用する立場になり、その想いを深く聴きたいと思いインタビューに臨みました。



すが わら ふみ ひと
菅原文仁 戸田市長

●市長就任2年目となり、菅原市長の手腕が試される年となりました。戸田市には市長が市議会議員の時に成立した中小企業振興条例があり、まさにその条例を実際に活用する立場になりましたが、具体的にどのような施策を考えているのでしょうか？

戸田市中小企業振興条例は、平成22年に市民生活常任委員会にて調査、検討し、議員提案により平成23年に制定された条例ですが、当時、まさに私が市民生活常任委員会の一員として、条例の検討段階から携わって作った条例です。

ご存じのとおり、この条例は、個別の施策メニューを具体的に規定するものではなく、中小企業振興の理念、取り組んでいく中小企業振興施策の基本的な方向性を示す理念型条例となっています。必要とされる施策は常に変化していきますので、条例の理念の下、事業者の皆さまの声を聞きながら、より一層有益な施策について常に思索しているところです。

行すべき施策はたくさんありますが、その一つとして私がずっと掲げておりますのが、市内中小企業の「経済と雇用の好循環」の創出です。本市は、人口増加が続く背景もあり、意欲のある若手事業者や、もっと活躍したいシニアや女性などが多数おられ、まさに人材の宝庫ともいえる状況ではありますが、その一方で人手不足に悩んでいる中小企業の皆さまの声も聞いているところです。

先ずは、女性の活躍促進の一環として、事業者の皆さまが女性の働きやすい職場環境を整えられるように補助金の新設や、イクボス宣言等を行うとともに、中小企業の皆さまの人材育成に係る新たな支援策も検討しているところです。

また、本市の優れた商品や技術を認定する、戸田ブランド事業も

推進しているところですが、それに加え、地域の事業者が戸田市というブランドを活用できるよう、市としての名前自体もさらに売り出していきます。今年度は、シティセールスとして市の魅力をPRする冊子を策定するとともに、PR大使の任命なども検討しているところです。

さらに、市内事業者のニーズを把握するため、私自身が市内事業者の皆さまのところにどんどんお伺いして話をお聞きするとともに、広報紙でその内容を市民の皆さまにもお伝えしているところですが、訪問できる数には限界がありますので、今まさに市内事業者の皆さまがどのような状況にあり、どのような行政支援を必要とされているのか、生の声を聞くための市内事業者全てを対象にしたアンケートを今年度実施し、その結果を基に、今、必要とされている施策を実施する予定です。

戸田市中小企業振興条例の前文にあるとおり、常に「中小企業が置かれている厳しい現状とその果たしてきた役割を理解」した上で施策を実施していくことが必要だと考えています。

●戸田市の立地優位性を、産業にどのように生かしていこうと考えていますか？

本市は、首都に隣接する立地上の優位性もあり、古くは舟運、そして戦後は物流の拠点として人々が集まり、交流する中で産業が生まれ、今日まで多くの事業者、そして雇用の受け皿として発展してまいりました。

特に、倉庫業や印刷業等の比率は他地域よりも多くなっているとともに、近年では多種多様な事業所が活躍をしています。



工業団地があるような広い事業用の敷地はございませんが、この交通アクセスの良さと、都心と比べて地価が安いことを生かし、優れた技術を持っている中小企業にぜひお越しいただきたいと考えております。

そのためにも、先ほど申しあげましたとおり、私自身が先頭になり、市内事業者の皆さまの声を把握していくことが大切だと考えております。

●市長が考える地元の企業を活用した地域貢献にはどのようなことがあるのでしょうか？

地元の企業の皆さまも市民の一員と考えておりますので、一緒になって地域を盛り上げていきたいと考えています。

戸田市中小企業振興条例に基づき組織している中小企業振興会議においては、ちょうど今CSR認証制度等の、企業の地域貢献に対する表彰制度について話をさせていただいており、今後、提言いただく予定ですので、まずは、そのご意見を基にCSR認証制度を始めいきます。

これにより、地元企業の皆さまが普段から行っている地道な清掃活動、地域イベントへの参加、工場等の見学の受入れ等の地域貢献の輪をどんどん増やしていけるよう勧めていきたいと考えております。

そして何より、企業の皆さまは、それぞれが理念に基づき経済活動を行っていらっしゃる中で、素晴らしい技術やアイデア等により企業として成長していただき、戸田の企業として全国に向けて、強いては世界に向けて輝いていただくことが、結果として戸田市に一番貢献していただくことだと考えております。

そうした皆さまがより活躍できる環境づくりをしっかりと行っていくことが私の仕事であると考えております。

●戸田市では産官学民と連携した先進的な教育の推進を進めていますが、その具体的な内容と民間企業はどのように関わっているのかお聞かせください？

今、我が国を取り巻く状況は急速に変化し、情報化やグローバル化のほか、人工知能(AI)やビッグデータ活用等の技術革新により、社会構造や雇用構造は今後も大きく変化するとされています。こうした先行き不透明な時代を生き抜くためには、既存の知識や技能を身につけるだけでは不十分です。

そこで、戸田市では、探究心や社会への貢献意欲を原動力としながら、他者と協働して様々な課題に取り組むことができる子供を育てたいと考えています。

具体的には、「21世紀型スキル^{注1)}」、「汎用的スキル^{注2)}」、「非認知

スキル^{注3)}」の3つのスキルの育成を目指し、全国に先駆けた教育改革に取り組んでいます。

新たな学びを導入するにあたっては、産官学民との連携を積極的に進めており、本市ではこれまで、ベネッセコーポレーションやGoogle、Microsoft、Intel、国立情報学研究所など70を超える企業、大学、公的機関等と連携してきました。

企業等との連携により開発したカリキュラムを基に、プログラミング教育、英語教育、経済教育、リーディングスキルの4つの分野からなる「PEERカリキュラム」を市内全小中学校で実施しています。

プログラミング教育を例に挙げると、企業等が開発した新たなロボット教材やICT機器等を、学校を実証の場として研究をしてもらうとともに、教員研修を通じて最先端の技術を学び、日々の指導に生かしています。

産官学民との連携は、学校現場に時代のニーズに応じた最先端で質の高い教育を取り入れることのほか、「教員の働き方改革」にもつながると考えています。

今後は、社会で活用できる実践的な課題解決力を育むための「プロジェクト型学習(PBL)」やエビデンスに基づく教育政策を推進するEBPMの研究も進めています。

また、新たな学びを力強く推進していくためのICT環境の整備も重要です。ここ2年の間にもタブレットパソコンを小学校に2000台、中学校に1000台導入したほか、全校で高速無線LAN環境も整備しています。

今後も、時代のニーズに合う教育を実現するための環境を整え、学校をサポートしていきたいと思っております。

【参考】

- (注1)21世紀型スキル…これからの時代に必要となるITスキルや課題解決力など
- (注2)汎用的スキル…身につけた知識や技能を現実社会で汎用的に使いこなす力
- (注3)認知スキル…やり抜く力や探究心、自己肯定感、多様性への理解などの人間性や社会性

●最後に同友会企業に期待することは何でしょうか？

貴会におかれましては、常に「意欲的な学び合い」をされており、知識とやる気を兼ね備えた経営者の皆さまが集まられている会だと感じています。

ゆえに、引き続き、地域のモデル企業として、環境問題への取り組み、ダイバーシティの推進等による中小企業の視点からの地域づくりにご尽力いただけるよう期待いたしますとともに、その地域に根差したネットワークの活用により、地域の声を市政に届けていただきたいと考えております。

そして、皆さまと一緒に、経済と雇用の好循環を進めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。



戸田・蕨地区会幹事会メンバー

*この記事は令和元年5月16日に取材をしております。

【第3回中小企業応援サミット】中小企業から地域を変える！ ～地域振興のために行政と中小企業に何が求められているか～

埼玉同友会は7月17日に「中小企業応援サミット」が開催され、会員他41名、行政などから29名、計70名が参加しました。サミットでは植田浩史・慶応義塾大学経済学部教授をコーディネーターに、山崎守・吉川市産業振興部長、福嶋隆弘・深谷市産業振興部 産業ブランド推進室室長補佐、田口勝夫・久喜市環境経済部長の4名による中小企業振興条例に関するシンポジウムが行われました。

始めに、新井政策委員長から、「なぜ、中小企業応援サミットに取り組んでいるのか」という経緯と、「我々中小企業経営者として、未来に向けて何をしなければならないか」という問題提起がなされました。

シンポジウムでは、まず、吉川市からは「幸福実感向上を目指すまちづくりのための産業振興基本条例」の策定経緯と今後の重点施策についての報告。

次に深谷市からは、農業を核とした「産業ブランディング推進計画」の実践の報告。

最後に久喜市からは、振興条例策定までの経緯と2023年までの経済強化施策の報告等、3市の実務者レベルの取り組み報告がありました。

続いてのオープン討論では、川口市、熊谷市、さいたま市からプレゼンテーションがあり、本庄市、ふじみ野市、越谷市の事例等も報告され、活発な質疑応答がなされました。

これらを受けて、コーディネーターを務めた慶応大学の植田教

授からは、多様化・複雑化する経済環境のもとでの中小企業に向けて、3つの視点でのご示唆がありました。

一つ目は、地域企業として互いに「知恵」を出し合っていくこと。二つ目は、地域は、中小企業を生かす「エコシステム」であること。三つ目は、新たな経済の価値創造が求められていること。その後の交流会においても行政と経営者との活発な情報交換がなされ、盛況のうち閉会となりました。

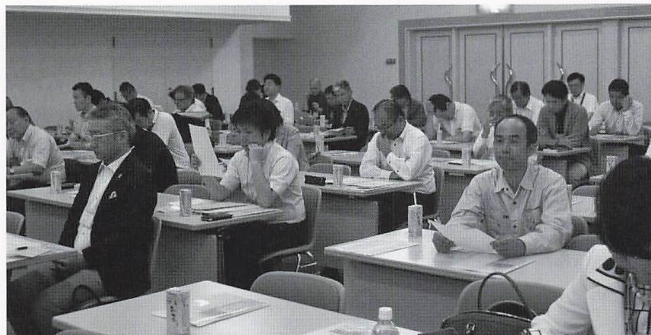
(川口地区会 小松君恵 記)



「中小企業振興基本条例」等を制定している自治体は、まだまだ少なく、そのような行政地区においては、この応援サミットは条例の制定を目指すための勉強会という一面もあります。まず、吉川市の山崎氏は条例制定までの取り組みとして、同友会を含め、様々な団体とも連携し何度も意見交換を行ったとの事です。その時、「役人が、作ったものは意味がない」とまで言われたりもしました。そして、全事業者は、イコール市民であり、市民の幸福感が、上がることは、地域の活性化や成長につながるという想いから条例の名称も重要と考え「吉川市における幸福実感向上を目指すまちづくりのための産業振興基本条例」と名付け施行しました。条例制定後は市の職員の意識にも変化が起き、この条例によって市民が幸せになったといえる事を願っているとの事でした。つづいて深谷市の福嶋氏からは産業のブランディングについてや、アグリテック集積都市(DEEP VALLEY)の実現を目指しているとの報告でした。また、中小企業とともに、きめ細かいサービスを展開していければ、活力ある企業と地域の構築という目的も達成出来るのではないかととの事でした。久喜市の田口氏は、久喜市は中小企業を支え、その中小企業の発展が市の発展につながるのではないかと考えました。そのために2000社にアンケートを取り中小企業と自治体が連携して基本条例を制定するに至ったそうです。制定後は、新たなビジネスプランをもつ中小企業の発掘を行うために、ビジネスコンテストを実施し、補助金を出すなどの取り組みも行っているとの事でした。最後にまとめとして、慶応大学の植田教授は、今回、3年目ということで、より、具体的な施策の紹介がなされたのではないかとのお話で

した。また、条例の制定により、それぞれの市の思いの具体的な姿が明らかになってきているとの事でした。エコシステム(企業全体が収益を得られる状態と解釈)が、崩壊しつつあるなかで地域、行政がその地域の中小企業を守っていく事が大事であると。また、各産業が連携することによりアイデアも出て、新しいものも生まれていく。そして、この農業・商業・工業と絡めて考えることを条例に入れる事が必要であり、その中から、新しい産業、商品等が出てきて、観光にまでも結びつけることが出来るのだとおっしゃっていました。つまり地域の産業振興を計るには地域の中小企業が頑張らないといけないのです。私が、地区会長の時の地区会設立30周年記念事業のテーマが「地域の発展は中小企業環境健全化にあり」であった事を改めて思い出しました。私たち中小企業家同友会も、行政や他団体との連携を深め、活躍の場を広げていかなくてはならないと強く感じた次第であります。

(中部地区会 中山晴喜 記)



関東・甲信越ブロック支部長交流会

～本質の議論で同友会の発展を～

7月27日、東京で第11回中同協関東・甲信越ブロック支部長交流会が開催され、9同友会・中同協から50名が参加しました。

冒頭、湯本良一・中同協副会長が挨拶をし、次に実践事例として、埼玉同友会彩北地区会会長の折原昌司氏〈高砂製菓(株)代表取締役〉、東京同友会葛飾支部長の遠藤和夫氏〈(株)ケイワールド代表取締役〉、神奈川同友会たま田園支部長の阿萬太氏〈(株)東洋社代表取締役社長〉の3名が報告しました。

今年度から東彩地区会の会長を拝命し、初めて参加させて頂きました。

事例報告では埼玉の折原会長(彩北地区会)の新地区設立の意義が話されました。ところどころ、此処だけの話の本音トークを交えながら「新地区を作るといことはそんなに簡単なものではないが、やり遂げるとい責任が大切で、責任が人を育てる」との言葉は心に響きました。

東京同友会葛飾支部の遠藤支部長の事例報告は組織が一度だめになり、そこから地域の特性を理解し他団体との交流から会員増強を図った事例が話されました。神奈川同友会たま田園支部の阿萬支部長の事例は大きな地区を分割し新しい地区を作り、幹事会や例会運営の改革の事例が話され、大変参考になるものでした。その後のグループ討論では東京、埼玉、山梨の支部長(会長)が県の課題、地区の課題、会員拡大、退会防止などの悩み、成功事例などを熱く討論しました。なぜ会員を増強するのか?との問いに「同友会理念実現のため、これに反対する会員がいますか?」と答えられ、これには納得いたしました。最後に「こんな良い会をPRしなければ駄目でしょう」と締めくり終了しました。

(東彩地区会 永井 義昭 記)

その後、「会員がいきいきと活動し増えて減らない支部となるために」をテーマに、参加者がグループ討論を行いました。

最後に、湯本氏が「支部長は活動の柱です。やり方の話ではなく、人と人のつながりはどうすれば深まるかなどの本質の話しあいをしてほしいと思います。また、仲間を増やしていくことは地域を変えていく力になります」とまとめ、閉会しました。

今回3名からの例会運営の工夫や会員増強事例報告を頂き、その後のグループ討論では会社経営と同友会運動に通じる交流が主でした。いくつか列挙します。

- ・社員を見るのと同じように会員の置かれている状況を考慮し働きかける
- ・準備にかかる時間以上に、終わった後のゲストへのフォローに時間をかけるべき
- ・トップ=支部長、幹事が楽しくないと、ゲストや会員はまた来たいと思うだろうか
- ・幹事や会員の本音が話せる運営が大事 等々

また、グループ討論の中でこんな発言がありました。「以前この交流会に参加した時は副支部長として支部長代理で出ざるを得なかったが、今思うと参加して本当に良かった。将来自分が支部長なんて無理と思っていたが、ここでの交流が自分を変え、今支部長をやっている自分の励みになっている。次の支部長候補者をこの交流会に出席させると良い流れになると思う」。

初めて参加してみた支部長交流会は意義あるものでした。

(大宮東地区会 薊喜美雄 記)



彩北地区会折原会長



【障害者雇用推進委員会 7月ベンチマーク例会】

障害者の「独立独歩」が障害者雇用に繋がる ～ 障害者の就労訓練・生活現場を知る ～

報告者:串田哲也氏(社会福祉法人 独歩 理事)

障害者の就労移行支援や雇用に向けて知見を広める目的で①放課後等ディサービス②就労移行・支援(B型)事業所③グループホームの見学例会

を開催しました。

①は利用者が立って仕事ができることを目指し、独自開発プログラム(内職・運動・掃除・学習)の訓練ツールがあり、社会人スキル・言葉遣い・マナー訓練、進路相談等、就労訓練・活動は多岐に亘り、繰り返し反復指導を行っています。「働く」までの道のりには段階があり、利用者には「就活する実践力を鍛える」場でもあります。②には「利用者の「出来ない」は職員が限界と決めてしまったから」という合言葉があり、電話の受答え訓練・挨拶訓練・施設外就労訓練等、いろいろな職業訓練(仕事)を個々の能力に合わせて行い、多くの

企業へ就職させています。③は埼玉では一番に取組んだ「身体障害者グループホーム」です。居住スペース・リフト付きバスルームを見学しました。職員不足・設備のコスト高・異性介護・ライフスタイルの変化等、いろいろな課題・問題点が多く残っていること・介護現場を知る職員の養成が急務であることなどのお話を伺いました。更に「福祉のプロ 独歩」としての新事業、障害のある全ての方への就職支援への取組みを始めたことを伺い「障害者の方々が、生涯福祉のお世話になる」ことへの疑問を持ち続け、障害者も自立を目指し、独歩としてもその自立へのお手伝いをし、社会人として、普通に働き、普通に生活し、共に育っていくことを目指している報告を拝聴いたしました。まさに、福祉事業の展開を多方面から独立・独歩・独自の考え方で実践されている企業でした。

(浦和地区会 石神 明美 記)

実行委員長・
座長に聞く!

2019全研分科会

企業作りにつながる多種多様な6つの
分科会で学び合おう!!

～自社の課題解決のヒント、ここにあり!!～

全県経営研究集会では、第一部の基調講演に続いて、第二部では分科会を行います。経営労働、政策・共同求人、社員教育、障害者雇用、青年部、見学という多種多様な6つの分科会です。今号では実行委員長、各分科会座長より、分科会を熱くPRしてもらいました。より良い企業づくりに向けて、ぜひ一緒に学び合ひましょう!

【全研実行委員会】

全研実行委員長: 吉田雄亮氏

〈埼玉同友会 副代表理事 戸田・蕨地区会 ㈱吉田電工 代表取締役〉

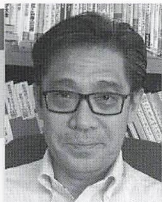


全県経営研究集会は地区会での活動、委員会での活動の成果「埼玉同友会運動の1年間の到達点を確認する場」です。具体的に地区会は目標登録人数の達成、県の委員会は分科会で高い次元の学びを提供出来るかを問われます。基調講演・分科会と経営課題に取り組める内容を準備しています。(経営指針・地域作りと新卒採用者・社員教育・多様性のある雇用・リーダー論・障害者雇用)経営を高め合う仲間作りの場として、自社、地域、同友会の未来について語りあう一日としましょう。

【第1分科会】

座長: 金子弘行氏

〈北部地区会 ㈱ディーアイケイ 代表取締役〉



第1分科会では、人材採用や育成などで悩みを抱えている皆さんと、「人を生かす経営」について、いっしょに学んでいきたいと思います。東和建設の小林さんから「経営指針づくりセミナーに参加し、経営理念の浸透、労働環境整備をスピーディーに実践した結果、若手社員が集まる会社になった!」という経営体験報告をいただきます。同友会で何を学ぶか? 自社で何を実践するか? といった基本について、あらためて学べる分科会にします。

【第2分科会】

座長: 三角武一郎氏

〈共同求人委員長 浦和地区会 ㈱KSP 代表取締役〉



2014年に宮城県初の理念条例として制定された「白石市中小企業振興基本条例」。宮城同友会白石蔵王支部会員が産業振興会議の中心となり、そのリーダーとして「地域に若者を残すことの重要性」を話し合いながら、東日本大震災から1年後に制定を実現しました。

事業革新と新しい仕事づくりで雇用を増やすという志のもと、「白石市経営指針を創る会」として、「地域を経営する」という意識で取り組んできた同友会運動の実践を報告します。

“政策で良い経営環境をつくる”という同友会の王道を学びましょう。

【第3分科会】

座長: 小山展弘氏

〈社員教育委員長 戸田・蕨地区会 泰清倉庫 ㈱代表取締役〉



第3分科会では、東京同友会より中同協の社員教育副委員長の佐々木氏を招いて、お話をさせていただきます。佐々木氏は委員会活動に参加し、厳しいときもありましたが、発展させることができました。どのように同友会や委員会を自社の経営に活かしたのか、また社員を採用したにも関わらず、定着や成長に悩まれている経営者の方も多くいるはずで、佐々木氏の実践報告を聞いて、少しでも自社の発展に役立てて頂ければと存じます。

【第4分科会】

座長: 谷田正樹氏

〈むさし野地区会 ㈱ノア専務取締役〉



当初、完全否定だった障害者雇用。同友会の学びから「知る」→「実践」へ舵を切りはじめると、見える景色が変わります。その有用性は、罰金や人手問題の解決のみならず、今や大いなる可能性へと変化しつつあります。

人を生かす経営、その真髄は、どんな人にも備わっている特性や個性を余す所無く引き出し、豊かな職場環境作りを通して、働く全ての人達の益とし、強靱な経営体質を作る事ではないか?

その為の示唆に富んだ報告です。

【第5分科会】

座長: 大森靖之氏

〈浦和地区会 行政書士大森法務事務所 代表〉



第5分科会は、誰しもが壁にぶつかるであろう「リーダーとは?」がテーマです。

報告者の齊藤さんが会社と青年部、それぞれリーダーとして、重圧の中、もがき苦しんだからこそ気づいた「何か」。これは立場や世代を超え幅広く共感いただけるとともに、明日からの行動を変えるきっかけとなることを確信し、青年部一丸となり、真心を込めてこの分科会をつくっています。

同友会員のほか、オブザーバー(後継者、経営幹部、将来を背負う若手社員)やゲストの方々のご参加も大歓迎です!

【第6分科会】

座長: 薮喜美雄氏

〈大宮東地区会 ㈱第一経営相談所 経営本部長〉



人材不足、長時間残業、有給取得促進という経営課題を多くの企業が抱えており、㈱大宮鍍金工業も同じ状況でした。

それらを解決するため、障害者雇用、外国人実習生受入、短時間勤務の女性雇用を推進し、それぞれの能力を活かせる組織をつくってこられました。

出野社長による経営改革の実践報告と現場見学で多くの学びを得る絶好の機会です。

各地区会で開催された例会をご紹介します。

【大宮南・大宮東地区会7月例会】

ツギハギだらけの会社経営から 潰れない会社作り

報告者：高瀬利明氏(株)ライフコミュニケーション 代表取締役



潰れない会社作りとは何か? 7月例会報告者は(株)ライフコミュニケーション代表取締役高瀬氏。オーダーメイドの生産管理システムの開発・販売・メンテナンス・ホームページ作成・WEBサイト構築を主な

事業として、経営理念「新しい発想と技術を探求し、お客様の立場で私たちがやるべきことを常に考え行動します」をモットーにまさに潰れない会社へと成長し続ける会社です。高瀬社長は、学生時代から社長になると決意し、まずは全ての営業スタイルを身につけようと入社した企業では、数ヶ月で営業成績トップとなり次へ転職と、起業するまで多くの経験をされました。生産管理システムと言えば高価なもの、手の出しにくい分野だと感じると思いますが、オーダーメイドでありながら低価格で「お客様のかゆい所に手が届くよう」構築。リピート率も高く、その仕組みは様々な経験で培ったアイデアから生まれたものです。グループ討論では、潰れない会社とは何か?をテーマに各グループ討論し盛り上がりました。「潰れない会社」という永遠のテーマの中、自社の強みや大切にしていることなど振返ることが出来き、また各社の強みや取り組みなど共有する非常に有意義な会となりました。

最後に「潰れそうな時、真剣に相談に乗ってくれた同友会の仲間感謝」との高瀬社長の言葉が印象的でした。

(大宮南地区会 近藤正道 記)

【西部地区会7月例会】

『今、なぜ働き方改革が必要なのか?』 ～働き方の多様化と労働環境のギャップ～

報告者：印牧政彦氏(かなまき社会保険労務士事務所 所長)



法改正に関して下記3つのポイントの説明を受けた。

(1)長時間労働の是正に繋がる改正、(2)正規・非正規の処遇差改善、(3)多様な働き方の実現。それぞれが従来に比べ厳格化された内容

となっていた。

グループ討論では、特に有給取得についての議論が多かつ

たと思われる。発表内容・質疑応答から、参加企業の多くは有給取得について課題を抱えている様に思われた。

働き方改革については、既に何らかの取り組みを始めている企業もあり関心の高さが伺えた。参加企業の中には、非常に柔軟な働き方を実施しているが、法改正に適用しない事例報告などもあり、今後の働き方改革の課題も見えた。中小企業における本来の働き方改革については、中小企業の機動力をいかした、柔軟で独自の働き方改革への取り組みがキーポイントになりそうである。

企業で36協定を締結していない企業も少数ながら見受けられた。新たな制度への対応も重要であるが、それ以前の基本的と思われる協定などについては、締結を促すなどの取組も必要かもしれないと考える。(井上 隆 記)

【東部地区会7月例会】

経営者よ地域人(ちいきびと)たれ

報告者：齊藤徳好氏(株)大徳工務店 会長



7月17日(水)、参加者51名により開催された7月例会は、地域づくり委員会が担当でした。昨年度最後の担当例会では地域振興をグローバルな視点から学びましたが、今年度はそれを踏まえてさらに一歩前進、実際に地域の中に経営者が入って活動し、自社の信頼を得るという実績を作られた方の、具体的な内容を伺いました。一人での講演という形ではなく、インタビューに答えていただく形で報告は進みました。間に活動を紹介する動画や、パワーポイントなどを挟み、資料には年表を添付するなどして、報告者の50年近くにわたる活動をまとめました。グループ討論のテーマは「地域での信頼を得るために今、取り組める課題は何ですか?」。グループ討論もいつもとは違って模造紙や付箋を使うという、地域活動によくある手法を取り入れてみました。結果、大層盛り上がり、各グループからは、

まずはできることから始める、ただし、リーダーが楽しむ、既存の活動に参加するだけでなく、自分で新たに活動を立ち上げ、発信するといったものや、そもそもボランティアって何だろう、全てがボランティアでよいのかといった疑問、経営者がこうした活動をすることに対して社員の反応はどうなのだろうと意見が出されました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。(吉田理子 記)

【川越地区会7月例会】

“好き”を仕事に、そして地域創生へ

報告者：岡部千里氏(株)こみん 代表取締役

キュートな女性のパワフルトークが光りました。大量に流れる情報の中から今必要な最適解を得るために取捨選択をして、常に最高のパフォーマンスを発揮し続けてきた岡部さんの生きざまがまさに迫力の報告となって私たちに響きまし



た。

挑戦の連続だったと思いますが、暗いところが微塵もなく、楽しく生き生きと難関を突破していく姿が参加者の心を引き込んでいきました。

一貫してその時その時を思いっきり楽しんできたからこそこの今であり、県や全国で同友会の学びを深め生かして、ライフワークにもなり得る古民家をテーマにしたこれ

からを生き方に到達されました。

懇親会に至っては終電に間に合わなくなる人が出るほど興奮と高まりで、会話の花が咲きました。参加者は57名でした。

(内田 茂 記)

【東彩地区会7月例会】

『過酷な製造業は働きやすく魅力的な会社にはなれないの!?!』

報告者: 山本成年氏(山本工機(株) 代表取締役)

情熱と知識を精練し世界(あなた)の暮らしを支えます。報告者の山本氏の事業は、八潮市で、真鍮・砲金・アルミ鋳物の砂型鋳造から加工・組立・検査までを社内で一貫生産する造業として、主に私たちの生活に欠かせないインフラ整備分

野の部品製造で活躍されています。

入社当時売り上げの3倍の債務があり資金繰りは火の車、協力工場に様々な面で助けをもらいながらなんとか繋いできたこともありました。また、最近までの労働環境も1,200度の液体で火傷しても、火傷じゃない!と気合と根性で乗り切ってきた極悪な状況もありました。

そのような中、社内カイゼンの必要性を感じ、持ち前の明るさと、根拠のない自信と豪語しながら様々な取り組みを始めました。しかしこれも結果は場当たりので継続しませんでした。このような状況でしたが今は、カイゼンも計画的に取り組み、目的をもって成果が見えるようにしなければと、社員と共に歩み始めることにつながりました。

そして、5年ビジョンでは『地元小学校の社会科見学を受け入れられるように』と工場内の安全整備と3S活動を継続的に実施。報告の中での山本氏の宣言に、10年ビジョンでは『日本各地から工場見学に来てもらえる』企業を目指し、社員一丸となり、企業使命の『確かな部品を製造し日常を安心して過ごす事の出来る当たり前を広げて行きます』を実現し継続しますと語りました。

今回の報告者からは、安心して働きやすい職場とは?をテーマにグループ討論、報告で得た気づきや学びを深め、明日からでもすぐに実践に繋がる討論もできました。(小野良一郎 記)



企業変革支援プログラムを使おう

e.doyuの使い方 最終回

e.doyuの主たる利用目的は会内での情報共有にあります。会員企業が独自に活用できるツールが指針セミナーでも行われている「企業変革支援プログラム」です。これを使わない手はありませんよね。

操作方法

1. 左のメニューより[企業変革支援プログラム]をクリック
直感的に進めていけますが、右上にある「入力の手引き」をクリックすると詳しいマニュアルが表示されます。やり直しも可能。レーダーチャートで業種別や従業員数別による全国平均との比較、自社の年度ごとの変遷など多方面から自社の位置を確認できるのです。

クラウド化が拡大している中、情報共有の目的によっては外部サービスを利用する方がいいかもしれません。しかしe.doyuには同友会ならではの機能が備わっています。活用するか活用しないかは、あなた、そして地区会・委員会次第。(中部地区会 矢澤 敦臣 記)

企業変革支援PGステップ2 記入シート
● 入力の手引き

企業変革支援プログラム ステップ1

「企業変革支援プログラム ステップ1」は、同友会の「三つの目的」や「中小企業における労使関係の見解」「21世紀型中小企業づくり」のエッセンスを抜き出し、それらを企業変革のために必要要素として整理分類し、自社の成長発展を図るものさしとして使えるよう、まとめられたものです。

このプログラムを使い、年1回自社の健康診断をして、自社の経年変化を客観的にチェックして経営課題を明確にし、同友会で学び、不況に負けない強じんな企業づくりを行います。

冊子『企業変革支援プログラム ステップ1』（中小企業家同友会全国協議会発行）をよくお読みのうえでご利用ください。

※2015年9月より認証コードの入力は不要となりました。

<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 👤 自社のデータを入力する </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 📅 今年度の自社の健康診断データを入力する </div>	<p>自社の会社概要（社員数や資本金など）を確認後、ステップ1の5カテゴリ・22項目について回答します。</p> <p>経年変化を確認するため年1回データを入力し確定します。</p>
自社のデータはここから入力	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 📊 自社のデータをグラフ化する </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 📄 過去の自社データ一覧を見る </div>	<p>過去に回答したデータを確認しグラフ化します。</p> <p>下書きを含めた過去の回答データを一覧で表示します。下書き中のものを編集することが可能です。</p>
ここで修正が可能	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 🌐 全国の平均データを見る </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 📊 全国のデータと自社データを比較する </div>	<p>業種別、従業員規模別、地域別、創業年、入会歴、経営指標などの項目で全国の会員の蓄積されたデータを見ることができます。</p> <p>業種別、従業員規模別、地域別、創業年、入会歴、経営指標などの項目で全国の会員の蓄積されたデータと自社のデータが対比できます。</p>
全国平均との違いをグラフで比較	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px;"> 👤 実践事例集の活用 </div>	<p>「企業変革支援プログラムステップ1」の22の詳細項目ごとに、会員企業の実践事例を紹介しています。ここに掲載されている企業は、中間協発行「中小企業家しんぶん」やメールマガジン「DoyuNews」に掲載された企業で、ポイントを絞って紹介されています。全国の中間の実践を参考にしながらさらにステップアップしていきましょう。</p>

埼玉中小企業家同友会 2019年度 第2回理事会議事録

《2019年度スローガン》「人間尊重の経営」と「強靱な経営体質の企業」で豊かな地域づくりに貢献しよう

◆日時:2019年7月18日(木)18:30～20:30

◆会場:新都心ビジネス交流プラザ4F

◆司会・議長:高橋浩一理事

◆議事録署名者:高橋正哲副代表理事

◆議事録作成者:清水事務局長

○太田代表理事挨拶

- ・共同求人委員会の依頼で県南の高校教頭会議で講演した。同友会理念の自主・民主・連帯を中心に話をしたが学校も経営と同じ。副校長・教頭が管理し運営をしているので理念を理解してもらえたのではない。
- ・昨日は中小企業応援サミットが開催された。その中で慶応の植田教授は中小企業とは地域のエコシステムであり、インフラを支えているのである。また、今まで通りの仕事をしていたら立ち行かなくなるので自分で新たな価値や市場を生み出していくことが必要と話された。
- ・中同協のDOR等で予見されていたが景気が下を向いてきているようだ。特に自動車関連はもう既にその影響が出ている。地区会長、理事は地区内の会員の情報交換を緊密にして連携してください。

全国から参加して中同協定時総会が開催された。埼玉同友会からは72名の参加が見られた。(全国4位の参加者数)当日参加した中から3名が報告した。

- ①小林理事(戸田・蔵):初の参加だったが定時総会の規模は大きかった。分科会では中小企業基盤整備機構を活用している報告等聞き、日々情報収集をして今後の経営に活かしていかなければと思った。
- ②宇梶理事(大宮南・ファミ):2回目の参加だったが今回は自地区の参加者も多く良かった。分科会では他県の女性部の方の報告でそれぞれの立場で事業活動をしている多く仲間の報告を学ぶ事が出来た。全体会では広浜会長より経営者は情勢を学び、SDGsを意識しなくてはいけないという事を学んだ。
- ③田中青年部長代理(中部):初の参加だったが規模感は凄かった。分科会では考え方、伝え方がいつもと違うグループ討論で自分の周りの色々な人のことを考えさせられた。大変勉強になった。

議事(審議事項・協議事項・報告事項・連絡事項)

報告事項

1. 全研実行委員会報告(報告者:吉田副代表理事)6/27に第3回全研実行委員会を開催。

既に今年度はリーフレットも完成したがこれは準備を進めている経営地区会及び全研実行委員会の皆さんの奮闘によるものである。是非リーフレットは参加促進に活用して頂きたい。参加登録目標案では500名。今年のグループ長研修は10月初旬に座長、室長研修もかねて実施する。キャラバンについては従前のようなキャラバン隊方式ではなく各地区の実行委員を中心にのぼりを手に参加促進を図っていく(のぼりは次回実行委員会で配布する)。また、今年はPRカードを作成するので盛り上げていきたい。来賓の方には基調講演、分科会、懇親会とセットでの参加を促進する。

2. 政策委員会報告(報告者:新井理事)

- ①中小企業応援サミット:7/17に埼玉県、埼玉県中小企業団体中央会等の後援を受け第3回中小企業応援サミットを開催した。慶応大学教授の植田浩史氏、吉川市及び久喜市、深谷市等の実務担当者の報告を受け、その後、川口市、熊谷市、さいたま市の参加者が地域振興の実践事例等を報告し交流した。昨年と比較して新たに5市の行政の担当者の参加も見られ今年も活発な交流が出来た。
- ②政策提言:今年も埼玉県に対し、産業政策を中心に政策の提言、要望を実施する。委員会、地区会を問わず、政策について要望があれば事務局まで提出していただきたい。
- ③景況調査:2019年7-9月期景況調査を実施する。前は200筆まで及ばなかったが今回も前回同様300筆を目標とした。今回は特別事項として経営指針成文化、就業規則の成文化状況を聞くこととなった。

3. 第51回中同協定時総会について(報告者:三角副代表理事)

7/4、5に東京同友会設営の元、京王プラザホテルで約1800名が

4. 関東甲信越支部長交流会について(報告者:小山副代表理事)

7月27日(土)に第11回の関東甲信越ブロック支部長交流会が開催される。対象は支部長だが埼玉では地区会長、地区幹事の方が参加できる。登録期限が迫ってきているので早めの登録をして頂きたい。なお、彩北地区会長の折原氏が事例報告される。

5. 地区会・委員会よりの報告

むさし野地区会

福山地区会長が事情により退会することになったので理事会には今後代理の者が出席という事が報告された。

6. 事務局よりの報告

7/1より2名の職員採用報告と採用者の自己紹介を実施した。
(田嶋清美、岡田香保)

7. 入会還元金報告(報告者:小山副代表理事)

2019年度の会員拡大策の一環である入会還元金を5月以降7月初めまでに入会のあった地区会に贈呈した。

川口2名、戸田・蔵2名、浦和1名、大宮東2名、西部2名、むさし野2名、東部2名、さくら1名、川越2名、東彩1名、彩北1名、全11地区

グループ討論(19:00～20:30)

『2019年度 各地区会方針進捗状況について』

- ・(報告者):16地区会地区会長、地区会長代理
- 全16地区の会長が今年度方針を前半、後半に分けて全理事に説明した。それを受けて発表該地区会の内容を中心に自地区の方針進捗状況、課題等を8グループに分けて正副代表理事がグループ長になりグループ討論を実施した。日頃聞くことができない他地区の状況を聞くことが出来た。

企業訪問記

日本フッソ工業(株)

代表取締役 豊岡敬氏〈東部地区会〉



家庭用フライパンから、宇宙事業まで。様々な製品のフッソ樹脂コーティングを行う日本フッソ工業。創業者でもある豊岡社長の父、衛氏が顧客の「機械に材料がこびりついてこま

る」という課題解決のために、非粘着コーティング材料を探し求めたことが、会社誕生の原点でした。ロサンジェルの商店でテフロンコーティングと出会い、新規事業として、1964年、日本フッソ工業所の開設に至ります。

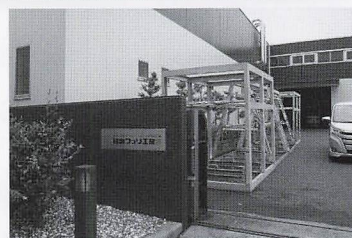
液晶ディスプレイなどのフラットパネル時代の到来や、半導体製品の増加など、市場の変化をつかむと同時に、各々のユーザーの課題を解決することで、その顧客にとってのオンリーワンサプライヤーとなって



いきました。課題解決のビジネススタイルは、価格競争のない市場でのビジネスという、理想的な戦略につながりました。

韓国に進出した際には、顧客との関係性の違いや、社員との向き合い方の違いに戸惑うことも。「経営者のための会社ではない。同友会で学んだ人を生かす経営を韓国でも実践しました」と豊岡氏は振り返ります。社員教育の徹底や、接待営業に頼らない高付加価値商品への転換などを図り、業績はV字回復し高収益の企業への脱却に成功したのでした。

現在は、韓国の他、タイにも海外拠点をもち、2016年の50周年式典には社員が韓国に集結しました。物流インフラの整っているタイの工場はアセアン市場全体の拠点として位置づけているそうです。(事務局 古川佳子 記)

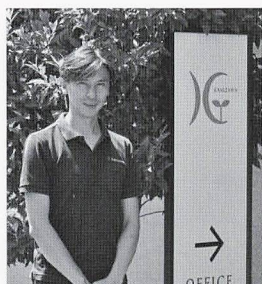


会社概要

本社 大阪府堺市美原区木材通2-4-6
北日本営業部 埼玉県春日部市豊野町2-5-1
資本金: 3500万円
従業員: 107名(グループ全体で160名)
事業概要: フッ素樹脂焼付コーティング、ライニング業務、コーティング、ライニング機材のエンジニアリング業務
会社URL: <http://www.nipponfusso.com>

(株)カネザワ

代表取締役 金澤正雄氏〈北部地区会〉



神川町に、そして県北の地に名を馳せる(株)カネザワに伺ってきました。

現会長が1971年(S46)創業、現在二代目の金澤正雄氏が代表取締役を務めます。建材業としてスタートした事業は時代の要請に応え、その姿を柔軟且つ戦略的に展

開し、現在は自然素材を生かし人に優しく時が経っても経年劣化が美しい住宅建築を中心に、介護業として静かでゆったりとした老後を楽しむホーム経営、併設デイサービス事業で地域に心豊かな地域間の人々の交流づくり、他にも休耕地の農地を生かせないかと地域の相談から観光農園業も始めました。多角的にも思える事業展開かもしれませんがそれぞ

れに関連性があり、企業力に余裕を持たせ、更に次の可能性を見出していく経営は目を見張るものがありました。企画力や発信力、社員さんの創造力やフッ



トワークの良さがキラリと光っていることも、社内の随所に取り組みました。

地域のカネザワとしてその存在に圧巻されるものに、今年で4回目を迎えた「暮らしマルシェ」があります。地元には、世界的にも有名な人や企業、魅力あるものやサービスがあります。そういうことも知ってもらいたいし、来場者とつながることが何よりと今年100店のお店と1,500人の来場イベントとして一気に成長。オーガニックをテーマとしたこの取り組みは、地域の魅力発信にもつながっており全国からも問い合わせが来ているそうです。金澤氏はイベントでは利益にはつながりませんが、社員さんや協力者の方々のやりがいや達成感が伝わってくるのが嬉しいそうです。「家族を大切に、そして本物に触れることができ、さらに地域に貢献し共存できる事業を続けていきたい」と語っていただきました。暮らしマルシェは毎年5月に開催、私も次回は出かけてみたいと楽しみにしてきました。(事務局 田ノ上哲美 記)



会社概要

住所: 埼玉県神川町元阿保852
資本金: 5000万円
従業員: 40名
事業概要: 建設業、アパート賃貸業不動産、介護施設デイサービス、太陽光発電事業・施工等
会社URL: <http://kanezawa.co.jp/>

新たな辞書の1ページ **新入会員紹介** (7/1~8/1)



有麻 健一
ユニクロ日本連絡事務所
川越地区会
セラミックアンテナの設計・製造・販売、圧電素子の設計・製造・販売



松田 洋一
Rutile of heart
むさし野地区会
美容食品、美容化粧品販売、試験コーディネーター



阿部 繁令
ミツア建装(株)
川越地区会
一般建築内外塗装、戸建外壁塗装、設備塗装、防水塗装、ソーリング



永井 輝久
NT-クラブ
東彩地区会
生命保険業



松本 仁
社会福祉法人 うらわ学園
浦和地区会
知的障害等をお持ちの方を対象とした企業就労を目的とした訓練及び求職活動のサポート。

会員information

《住所・TEL・FAX変更》

東彩地区会 (株)FTKコンサルタント 福岡智之会員
〒342-0038 埼玉県吉川市美南2-15-13
TEL:048-916-5792
FAX:048-916-5712

浦和地区会 (株)リナティス 津和野真佐子会員
〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-10-11
第一木村ビル101
TEL:048-816-3845
FAX:048-816-3846

《住所変更》

大宮南地区会 me life woman 岩見真里子会員
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-19-8
さくら地区会 (株)日通建 千葉草太郎会員
〒171-0014 東京都豊島区池袋2-55-11 池袋ロイヤルビル8F

《TEL変更》

大宮南地区会 (株)リックネットワークス 松野真治会員
TEL:048-859-6856

《社名・電話・役職変更》

大宮東地区会 (株)ボナスパジオ 兼杉淳会員
TEL:03-3663-8110
代表取締役社長へ

《社名・役職変更》

大宮南地区会 (株)実践総研 戸高成二会員
(一社)第一中小企業診断士会 代表理事へ

《役職変更》

北部地区会 (株)ディーアイケイ 金子弘行会員
代表取締役会長へ
北部地区会 (株)ディーアイケイ 中川怜子会員
代表取締役へ
西部地区会 (株)三協建設 村里忠輔会員
専務へ



新入職員紹介 **新しい事務局スタッフをご紹介します!**



田嶋清美

みなさま、こんにちは。7月から事務局に入局しました深谷市出身居住の田嶋です。今まで県外でも働いており、環境・地理など埼玉の良さを実感してきたことで、「やはり埼玉県内で働きたい」と考えるようになりました。

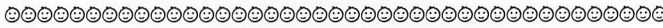
他県の知人によると、映画のヒットや新札の話題が続く「令和は埼玉の時代」だそうです。この勢いで埼玉がさらに盛り上がっていくことを期待し、自分も埼玉同友会で埼玉を盛り上げる力になりたいと思っています。少しでも早くみなさまのお役に立てるよう日々学んでいきたいと思っています。



岡田香保

7月より入局しました岡田香保と申します。深谷市出身の23歳です。趣味は大相撲観戦とスキーです。

同友会の理念や仕組みをきちんと理解できるように、会員の方々と関わりながらたくさん学んで成長していきたいです。まずは若さと体力を武器に元気に働いて、地元の埼玉をみなさまと一緒に盛り上げていけたらいいなと思っています!まだまだ分からない事ばかりで頼りないとは思いますが、早く同友会に馴染んで、皆さまのお役に立てるように頑張ります。よろしくお願いたします。



同友会日誌 7月1日~31日

- 1日(月) 東彩幹事会、さくら幹事会、彩北幹事会・学習会
- 2日(火) 川口幹事会、大宮東幹事会、西部幹事会、川越幹事会、大宮南幹事会
- 3日(水) むさし野幹事会、大宮ブロック会議、戸田・蕨幹事会、東部幹事会、中部幹事会、浦和幹事会
- 8日(月) 埼玉葛幹事会・例会、障害者雇用推進委員会
- 9日(火) ファムミーティング・ファム学習会
- 10日(水) 共同求人委員会、広報委員会
- 11日(木) 経営労働委員会、北部幹事会、青年部例会
- 12日(金) 正副代表理事会宿、大宮中央幹事会、仕事づくり委員会
- 14日(日) 浦和例会
- 16日(火) 川越例会、さくら例会、東彩例会
- 17日(水) 中小企業応援サミット(政策委員会)、東部例会、川口例会、むさし野例会
- 18日(木) 正副代表理事会議、第2回理事会
- 19日(金) 第2回会員拡大会議、大宮東・大宮南合同例会、西部例会
- 20日(土) 経営指針づくりセミナー【理念編①】
- 22日(月) 政策委員会
- 23日(火) 障害者雇用推進委員会ベンチマーク
- 24日(水) ファム例会、青年部幹事会
- 25日(木) 北部例会、戸田・蕨例会
- 26日(金) 合宿交流会(共同求人委員会)~27日(土)
- 27日(土) 関東甲信越ブロック支部長交流会
- 29日(月) むさし野正副会長会議
- 30日(火) 社員教育委員会
- 31日(水) 全研実行委員会

会員数

2019年9月4日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川口	46	大宮南	90	北部	37
戸田・蕨	54	西部	45	さくら	83
浦和	82	むさし野	122	川越	88
大宮東	43	東部	132	東彩	60
大宮中央	39	中部	49	彩北	19
		埼玉葛	54	計	1043

編集後記

いよいよ1年を切った東京オリンピック開催でワクワク感もわいてきておりますが米中貿易摩擦、日韓関係悪化など国際情勢は厳しい状況下であり経済への影響が大変気になっているところです。新元号の令和がスタートし新たな気持ちで目標を掲げ、意気揚々と毎日を過ごしていこうとしておりますが正直、不安な気持ちは隠せません。そんな中でも前向きで頑張っている皆様の姿を拝見していると、そんな気持ちも払拭されていきます。

埼玉同友会に入って半年が経とうとしておりますが、入会して良かったと実感している今日この頃です。

(大宮南地区会 佐藤正幸 記)



社会保険労務士×保険代理店という形



安形 智昭

やすかた ともあき

大宮東地区会
やすかた社会保険労務士
行政書士事務所 所長
及び保険代理店 勤務
埼玉県川口市芝中田2-34-19
TEL. 048-261-9215
FAX. 048-267-4414



仕事から保険に、また保険のお客様から労務相談など。信頼されているからこそ相談されるという、ビジネスの核となるべくスタイルができあがり始めています。

●同友会に入会

「もっと社会に入り込み、いろいろなものをみる必要がある」そのような考えが浮かんだ頃、知り合いに紹介された同友会に入会。更に2年目にして会長に推薦されます。異例の速さでの会長就任は、本人よりも、周りに大きな衝撃を与えました。「今考えると、大役をよく引き受けたなとも思いますが、人前に立つ、しゃべるということが苦手だったこともあり、それを克服するいいチャンスかもと、前向きに捉えました。それに、誰かに必要とされる時は、何事も断らずにやってみようという考えだったので」と当時を振り返ります。「結果的に地区会の内外を問わず、大勢の前で話す機会が多くなり、スピーチも苦痛どころか楽しむ余裕さえできるようになりましたね。また他の理事の方々の立ち振舞や発言からも学ぶことが多くあり、何にも替えがたい良い経験をさせていただきました」と、得られたものを物語る、自信で満ちた笑顔で語ります。

●生い立ち

会社名の通り「土業」なのですが、初めに関わりを持ったのは保険業。保険代理店を営んでいた父に「継がなくても良いからとりあえず保険の資格だけとっておけ」という言葉が始まりだったそうです。もともとは保険代理店としてやっている父の姿を見ながら育った経緯もあり、興味はあったが特に踏み込まずにいた保険業。資格の勉強をする中で保険と法律の関係性、知らない分だけ損をする法律の作り方に興味を持ち無職から前へ進み始めました。

●社会保険労務士への道

次にあった父からの助言は「社会保険労務士の資格をとったら？」だったとの事。その職に身をおく者でない、なかなか知り得ないことですが、保険との関わりが意外とあるのが社会保険。保険自体が「社会保険の上乗せ」という考え方もあり、保険業を行っていると自然と社会保険にも関わりが生じることを知るのに時間はかかりませんでした。それならと、保険の仕事を始めるにあたって、先に社会保険労務士の資格に受かってから、しっかり始めようと思案します。

●売らだけじゃない保険

幼少期から父が保険の営業する姿を見ていたため、保険に対してのイメージが一般的に語られているものとは大きく異なるようで「保険は契約を取るだけじゃない、取ったあとのサポートも非常に大切」という考えを根っこに持っています。お客様の為に勉強を惜みず、ベストな提案、サポートをしていきたいという想いがお話の中で伝わってきました。その保険業としての対応の幅の広さを活かし、社会保険労務士として企業に関わるというスタイルをとっているそうです。そのため社労士としての



会長になる事で舞台上がる事が多くなりました

●これから

現在、社会保険労務士会川口支部 総務部長の役職でもある安形氏。初めは「自分には恐れ多い役職」と固辞したそうですが、せっかくの機会という事で受けたのだそうです。「苦勞も多いですが良い経験になっているのです。まだまだ社会保険労務士としてはスタートライン。この先何が起るかわかりません。若手の多い大宮東地区会のメンバーの中でも一番の若手でもあります。30代の若さを強みの一つにして、先の長い同友会活動を他の方々と一緒に楽しく活動していければと思います」(大宮東地区会 柴田大智 記)



地区幹事会では、最年少ながらも臆さずに発言

埼玉同友会 広報委員

- | | | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|---|-------------------------------|----------------|
| ●委員長
鈴木一朗 | ●委員
川口 坂本武蔵
戸田・蔵 石井孝徳 | 大森靖之 柴田大智
大宮中央 鈴木光義 | 水野美和 江崎浩史
山口将秀 | 中部 矢澤敦臣 東 彩 斉藤寿和
原田泰僧 折原昌司 | ●制作担当
栢込博久 |
| ●副委員長
酒井 啓
小田 明
中山晴喜 | 木村亮介 加藤早苗
浦 和 佐藤正幸
三友哲哉 | 大宮南 東 部 宇野碧留
藤元天美
島袋輝仁 | 埼玉 松本賢二
北部 東 禎章
萩原 武
さくら 池田惠津子 | 彩 北 早川良史 | ●印刷・製本
加藤早苗 |
| | | | | | ●事務局
古川佳子 |